「まちづくりの第２章」が始まります

市民の皆さんへ

仙北市長　門脇 光浩

可能性に満ち満ちたふるさと。世界中から不況の悲鳴が聞こえていますが、チャンスはいつもピンチの姿を借りてやって来ます。大切な心持ちは夢を諦めないこと、そして悲観しないことです。大人は子どもたちに、勇気を持って新しい合意づくりに取り組む姿や、可能性を追い続ける生き様を見せる責任があります。ふるさとを拓こうとする行動は、波紋が少しずつ広がるように、必ず次代に共鳴することを信じます。

◇・◇・◇・◇・◇

平成の合併は、日本の行政史上、歴史的な出来事でした。しかしながら未だ恩恵を享受できていないことも事実です。合併を進めたい国や県には、突き進まなければいけない理由がありました。主要因は、改善不可能とも言われる財政難です。平成２０年度末で国、県、市の債務残高を一人あたり額で計算（1万円以下切り捨て）すると、国分は６６０万円、県分は１００万円、市分は８０万円になります。合計で８４０万円もの高額な借金が、私たち一人一人にのしかかっている勘定です。いきおい国の政策や県、市の行政に失望している人も相当おいでかと思います。

仙北市は真にこの沸点で生まれました。でも苦悩を抱えながら、新たな歴史を刻み続けているのです。タイムマシンに乗って時をさかのぼることでもしない限り、過去を変えることはできません。後ろ向きの議論や他人を責める前に、今日、市民が各々の立場で、いかに最善を尽くし、それをどう市の発展に連動させるのか、この一点に思いを馳せるべきです。ありもしない旧町村間の壁にもたれかかり、無意識のうちに増幅しかける排他心などは全く無益です。無いものは補い合い、有るものは分かち合う、市民は家族同然ですから当たり前のことです。家族が共助し合ってこそ、夢は実現できます。市民の夢は、市民が一丸となってカタチに変えていくしかないのです。まちづくりの主役は、間違いなく市民の皆さんです。

◇・◇・◇・◇・◇

さあ、これから「まちづくりの第２章」が始まります。市政公約で約束した「明日を創る８つの約束」は、政策４０項目とその実施年度、さらに平成２５年度の達成目標を数値化してあります。大きく分類すると、第1に「市民の生活を守る（医療・福祉・防災力の強化、行財政改革の断行）」、第2

に「所得の向上を図る（産業育成、雇用拡大）」、そして第３に「次世代の人材育成（子育て環境の整備、教育の充実、スポーツと文化振興）」に区分することができます。

私は４年の任期中、最優先で医療再生に向けた環境づくりを進めます。相対として新市役所の建築、公共事業の一時的抑制など、歳出削減がしばらく続くかも知れません。一方で、市民の皆さんの所得を高めることが、結果として市の財政状況を好転させる最も確実な手法という判断から、物品や委託業務に関する地元発注率の向上政策、ワークシュア、食品産業群の育成、これらをプロデュースする総合産業研究所の開設を急ぎます。行政との距離感を縮め、地域運営を地域に暮らす市民の皆さんに担っていただく市民サポートセンターの設置も促進します。基幹産業としての第１次産業（農林畜水産業）は、生産・加工・流通・販売の各ステージで徹底的に支援します。新エネルギー・新素材産業の可能性も強力に探ります。観光業では角館と田沢湖を統一ブランドとして育て、国内はもちろん、アジア地域なども商圏ターゲットとします。角館、田沢湖畔、乳頭・高原・玉川・水沢等の温泉郡は、観光産業重点特区として再整備を図ります。現在の市役所の組織体制で、これらの取り組みを進めることが困難と予想されることから、来年度は機構改革を行います。既に準備チームとして市役所内に新たな組織充実を図る人事を発令しました。

◇・◇・◇・◇・◇

私は、市民の皆さん、市民代表の市議会議員の皆さん、そして市役所の皆さんと一緒に仕事ができる喜びで、胸が満たされています。また、じっと市役所の中で思慮を巡らすことができないセッカチな性分です。外部との交渉など市役所を空ける日が多く、市民の皆さんにはご迷惑をおかけする場面もあろうかと思います。どうかご勘弁ください。

選挙戦は過去のことです。まちづくりに向けた“工程表”や手法が違っただけだと思います。終われればノーサイド。ふるさとを元気にしたい想いは誰もが一緒ですから。

門脇市長　市役所初登庁

10月30日、田沢湖庁舎、角館庁舎、西木庁舎の各庁舎に初登庁しました。

それぞれの庁舎で職員から花束を渡され、大きな拍手で職員、市民らに出迎えられました。